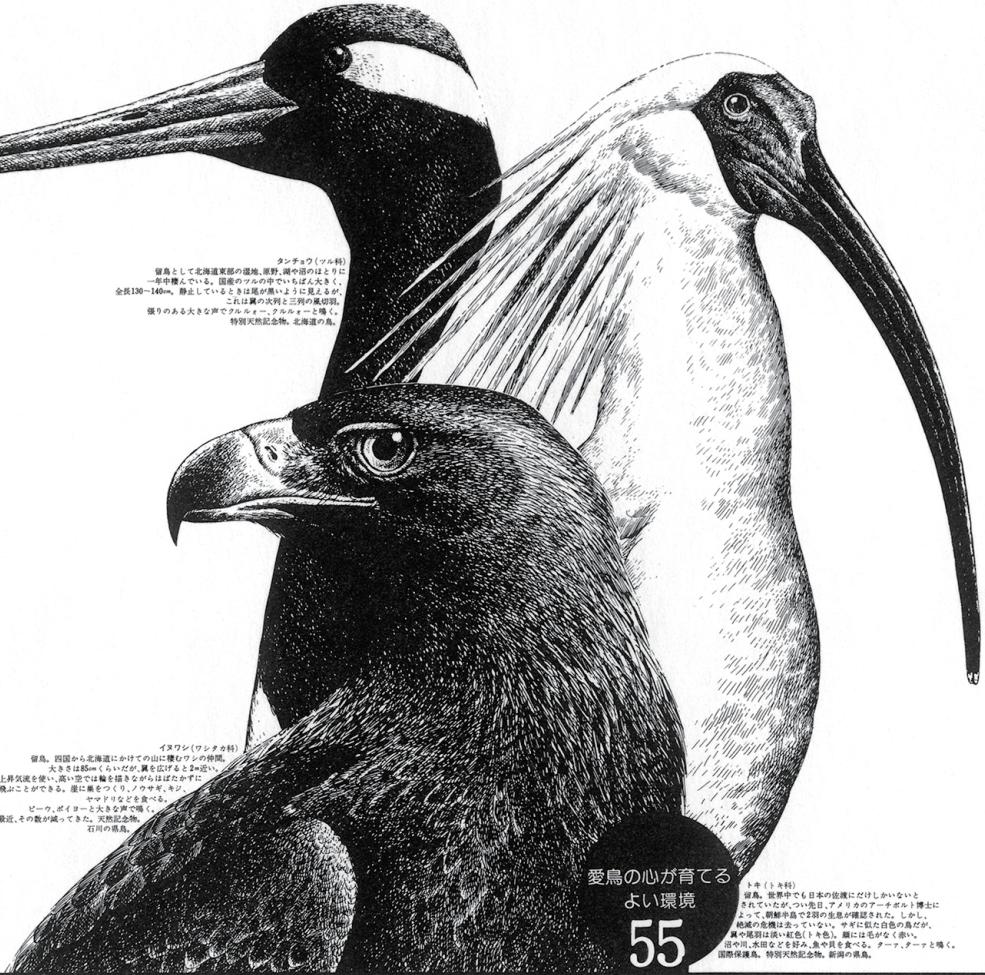


# 愛鳥キヤンペーンこれがかりも。



タンチョウ(ツル科)  
留鳥として北海道東部の湿地、里野、湖や沼はとりに  
一年中棲んでいる。國産の鳥の中では最も大きい。  
身長130~140cm。飛走しないといふのは恐らくよそ見だ。  
これは鳥の次男と三男の風切羽。  
張りのある大きな声で「クルルー、クルルー」と鳴く。  
特別天然記念物。北海道の鳥。

イヌワシ(ワシタカ科)  
留鳥。四国から北海道にかけて山林むらの仲間。  
大きさは鷹(ハヤブサ)よりも大きいが、翼を広げるとよく似て、  
上昇気流を利用して空では輪を描きながらはばたいて飛ぶことができる。巣に巣をつくり、ノクサギ、キジ、  
ヤマドリなどを食べる。  
ビーカ、ボーローなどの骨董品を販売している。  
最近、その数が減ってきた。天然記念物。  
石川の鳥。

愛鳥の心が育てる  
よい環境

55

トキ(トキ科)  
留鳥。世界でも日本の近海にだけ生息する珍しい鳥。  
日本ではついでに日本、アメリカのアーチボルド博士によ  
って、朝鮮半島で2羽の生息が確認された。しかし、  
滅滅の危機は去っていない。すでに飢えた白色の鳥だが、  
身軽で飛翔力は抜群。飛翔する姿はとても美しい。  
泥や川、水田などを好み、魚や貝を食べることで、  
特別天然記念物。新潟の鳥。

## トリは環境のバローメーター

鳥類保護が、私たちヒトをまもるためのアロー・ヘッド(Arrow-head:矢の總先)と呼ばれているのをご存知ですか。

自然の環境がこわされると、その影響を受けてすぐに姿を消してしまうトリがいます。ヒトにとっては、環境のどこが悪くなったのかわからない程の変化でも、いなくなってしまうトリたち——自分の棲む場所の環境を選ぶ基準がほしい、それだけに自然の環境破壊に敏感だということが言えますが——は、その環境がよい状態か悪い状態かを示す「」しになります。つまり、野鳥が少なくなったりいなくなったりすることは、やがてヒトも住めなくなるぞということを、身をもつて警告してくれているわけなのです。

## かけがえのない生命を大切に

トリが安全に生活できない環境では、ヒトも安心した暮らしができません。ヒトが健康な生活のできる環境を守るためにには、ヒトの住むところすべてに、たくさんのトリが安心していられる静かで清潔な環境が必要です。

私たちが愛鳥キヤンペーンをすすめているのは、トリの生命をまもることが、結局、ヒトの命をまもることにつながり、そして、かけがえのない自然からの命をまもり育てようという社会環境づくりなのです。野鳥保護——自然保護は、自然の一員としてのヒトの義務であり、ヒト自身の生存と命への自覚と愛情をはぐくむためのプロセスなのです。



財團 法人 日本鳥類保護連盟  
サンタリー株式会社  
サントリー株式会社

●この広告は、財團法人日本鳥類保護連盟の指導を得て、  
サンタリー株式会社がシリーズとして制作するものです。

お  
新  
じ  
い  
パ  
ン  
フレ  
ット  
を  
し  
ま  
す



ご好評をいただきたい  
美しい自然シリーズ  
パンフレット「庭に小鳥を」「野鳥を見に」に  
つづき、第3集として  
「自然の中で」ができあがりました。自然のしくみのすばらしさ、樂しい自然観察の方法など、全ページをクリチやんのコラボでおなじみの根本直さんのイラストレーションで展開した、初心者向きのやさしい入門書です。

●ご希望の方はお名前  
性別・年齢・住所・職業を  
お書きになり、誌代として  
切手300円弱封のうえ、下記までお送りください。

〒103-91 東京都日本  
橋局内松書箱第231号  
サンタリー株式会社  
愛鳥キヤンペーン  
「自然の中で」係